

本学学生と保護者の皆様へ 新型コロナウイルス感染症に関する学長メッセージその27

本学学生の皆さん、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

前回のメッセージ26を3月31日に発出してから2か月が経過しました。オミクロン株による感染は続いています。今回のゴールデンウィークは3年振りに行動制限がなく、人流もコロナ前に近づいてきたようです。連休明けには新規感染者数が増加しましたが、事前の予測には届かず、全体としてはすでに減少に向かっています。

こうした状況を踏まえ、本学では5月25日に危機管理対策委員会を開催し、5月27日から夏季休暇前までの2か月間の対応方針を決定しましたので、その内容を説明します。

1) 感染の現状について

新型コロナウイルス感染症の主体は、世界的にオミクロン株(BA.1)から、より感染力が強い下位変異株(BA.2)に置き換わりが進みました。南アフリカではさらにBA.4、BA.5が出現し、欧州ではオミクロン株BA.1とBA.2の特徴を併せ持つ変異株、あるいはデルタ株とオミクロン株の特徴を併せ持つ変異株も見つかっています。これらがどの程度の感染力を持ち、BA.2を凌駕するかどうかは当面の関心事です。

これまでの情報をまとめますと、BA.2の症状はBA.1と同程度であり、幸い重症化はしていないようです。BA.1による感染は、特に10歳未満の世代に拡大し、これを反映して保育園や幼稚園、小学校でまず感染が広がり、それが家庭内で保護者に感染するという感染経路が顕著になりました。

オミクロン株の若年層への感染では、重症化することはごくまれとされています。無症状で経過することも多く、「オミクロン株はインフルエンザ並み」という感覚も分からないではありません。わが国における5月24日時点での国内感染者総数は8,679,328人で、死者は30,382人です。新型コロナウイルスの感染が始まった2020年と2021年の2年間におけるわが国の感染者は101万人でしたから、オミクロン株の感染がいかに急速に拡大したかが数値でも示されています。また、これまで最も死者が多かったのは第3波の7,400人でしたが、オミクロン株による感染第6波の死者数はすでに1万人を超えているのです。

一方、季節性インフルエンザでも毎年約1,000万人が感染し、約1万人の関連死が起きていました。直接の死亡は3,000人～4,000人と想定されています。この2年間、3密の回避、マスクの装着、手洗いの励行などの感染防御対策を皆が実行しているためと考えられますが、インフルエンザの感染者は激減しています。にもかかわらず、オミクロン株の感染は防げていないのですから、新型コロナがインフルエンザ並みになったわけではないことが分かります。また、そもそもインフルエンザも感染症なのですから、本来は予防し、治療することによって、死亡は極力防ぐべき疾患なのです。「死者が従来インフルエンザ並みになったからよいのだ」ということではありません。

学長メッセージ25でお知らせした通り、今年の成人式後に本学内で100名を超える大きな感染クラスターが発生しました。このため、学内は原則入構禁止としましたので、後期の定期試験も含めて、授業は全てオンラインで対応せざるを得なくなりました。一旦大きな感染クラスターが発生してしまうと、大学は甚大な影響を受け、機能を維持できなくなってしまうのです。学内での感染クラスターの再発は、何としても阻止しなければならないことを理解してください。

特效薬がない感染症の拡大を防ぐための対策の基本は「検査と隔離」です。感染が疑わしい場合には可能な限り検査を実施し、陽性者とは接触しないようにして、感染の拡大を防ぐことが唯一の対策になります。身近な人が検査で陽性と判明したり、濃厚接触者に指定された場合、自らの感染が疑われたり、不安な場合は、学内に入構せず、速やかにPCR検査を受けてください。

2) 本学の新方針について

本学における「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限レベル表」は、一律レベル1（注意）に統一されておりました。今回はオミクロン株感染の収束傾向を踏まえ、原則としてレベル1とし、移動については制限を緩和することとしました。学生・院生・教職員の国外への移動は、原則禁止を継続しますが、国内の移動については制限を加えません。「行動制限レベル表」の詳細は、ポータルサイトや大学ホームページで必ず確認してください。

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路はエアロゾル感染です。エアロゾル感染症の防御対策の基本は、換気、マスク装着、手洗い、対人接触の回避（疑わしい人との会食・カラオケの回避、社会的距離の確保）であることに変わりはありません。本学内では引き続き、感染防御対策を徹底しましょう。

本学では、感染防御対策として、(1) 会食・カラオケを回避する、(2) マスクを常に装着し、口・鼻に触れない、(3) 健康観察と行動記録を継続する、の3項目を掲げてきました。今回の新方針では、(1)は「大人数(5人以上)との会食・カラオケを控えること」に改めました。不特定多数が参加する宴会等を想定しています。

新型コロナウイルス感染症対策分科会は2020年10月23日、感染リスクが高まる「5つの場面」として、①飲食を伴う懇親会等、②大人数や長時間におよぶ飲食（例えば5人以上の飲食と例示）、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わり（休憩室、更衣室等での関連を例示）を挙げています。「大人数」を具体的に何人以上と定義することは困難ですが、ここでは分科会の提案に従い、「5人以上」としました。感染リスクが高まる場面（本学では特に上記①、②、③）に遭遇した場合には、積極的にPCR検査を受け、安全を確認してください。今回、行動制限は撤廃しますが、それには皆さんが感染防御対策を徹底することが不可欠です。安易に安全と判断せず、感染リスクが高まる場面かどうかをよく考えて行動してください。

また (2) は「大学構内では原則としてマスクを装着すること」、に改めました。 マスク装着については、5月20日に厚労省から新たな通知が出ましたので、これを踏まえた対応です。5月24日には厚労省通知を受けて、文科省も「学校生活における児童生徒等のマスクの着用について」という通知を出し、体育の授業ではマスク装着は不要とし、運動部活動は各競技団体が作成するガイドラインを踏まえるよう求めました。こうした例外を除き、本学の構内では原則マスクを装着してください。

マスクをつけたり、外したりすることは、汚染されている可能性のあるマスク外面・内面に触れる機会を増やし、却って感染リスクを高めることとなります。外したマスクを再度装着することは、本来避けるべき行為なのです。以上を踏まえて、本学構内では原則マスクの装着を継続することとしたことを理解してください

今回、皆さんの県内外の移動に制限は加えません。十分な感染防御対策を講じた上で移動してください。県外に移動する場合も「県外移動届」の提出は不要とします。

PCR検査については、本学独自のPCR検査センターを立ち上げました。6月中の稼働を目指して、現在、運用マニュアルや利用ガイドラインを策定していますので、稼働後は本学の検査センターを利用してください。それまでは、新潟県が用意している無料検査所や、新潟リハビリテーション病院、新潟PCR検査センターでの検査を予約して受検してください。安全な構内環境を維持するため、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

皆さんのアルバイト活動、特に居酒屋など、飲食や接待を伴う場合は、エアロゾル感染を念頭に置き、感染防御策を徹底して対応してください。

強化指定クラブの活動は、部長・監督・コーチの指示に従って慎重に行ってください。課外活動(クラブ・サークル、ボランティア活動等)は活動計画書を提出し、安全が確認される場合は許可しますので、顧問の指示に従って行動してください。

車に同乗する際は、換気を行うとともに、マスクを装着し、車内では飲食しないようにしましょう。海外渡航は原則として禁止としますが、個別に判断しますので、学生課に相談してください。 この他、どのようなことでも構いませんので、疑問があれば、遠慮なく学生課や各学科の担当者に相談してください。

3) ワクチンの追加接種について

本学では3月21日から、ワクチンの3回目の追加接種を行いました。4月25日の時点で、学外での接種を含めたワクチン接種率は、学生61.9%、教職員96.9%で、大学全体では64.3%です。2回目までの接種率は本年1月末の集計で、学部生90.7%、院生95.9%、教職員96.9%で、全体では91.2%でした。今回は学生の皆さんの接種率が低いまです。

現行のワクチンは感染と発症を防ぐには十分でなく、ブレークスルー感染が起きることはご存じの通りです。しかし、重症化を予防する効果は依然保たれていますので、本学では

3回目のワクチン接種を強く推奨しています。 今回の職域接種で使用するのはモデルナ製ワクチンですが、接種量は1回目、2回目の半分です。注射局所の疼痛や発熱などの副反応は前回とほぼ同程度と報告されています。最終接種から6か月経過すれば、中和抗体量は著減していますので、6か月以上経過している皆さんには、速やかに接種を受けるよう改めて推奨します。

本学内には、まだ接種を受けていない人たちが約500名います。本学ではワクチン接種者と未接種者を区別しないとお約束しています。ワクチン未接種者は感染した場合、重症化するリスクが高いため、学内で未接種の皆さんへの感染リスクを高めるような行動は厳に慎んでください。

オミクロン株の後にも新たな変異株が出現し、世界中に流行する可能性はまだ残っています。感染者と接触しなければ、感染症は拡大しないのですから、学生・院生の皆さんは引き続き、自ら感染しないように、他の人に感染させないように、これまでと同様に慎重に行動してください。これが現状で有効な唯一の対策です。新潟医療福祉大学の学生であるという自覚をもって、行動してくださるよう改めてお願いします。

2022年5月26日

新潟医療福祉大学学長 西澤 正豊